

機動戦士ガンダム三十年記念

ASUKA

前川泰信 作

登場人物

- A 明日香（あすか） 高機能人型機械少女型S508
B 響子（きょうこ） 女子高生 高校一年生
C 未来（みく） Bの妹 小学四年生
D 時江（ときえ） Bの友人 歌手志望
E 優（ゆう） Bの友人 フリーター志望
以下F～Sは可能な限り、次の役を兼ねる KHK所員 同級生 ダンサー 大道具用の黒衣
さらに四人以上は音響と照明を兼ねる。

- F フジワラ KHK（高機能人型機械研究所）所員 開発主任
G 黒ずくめの集団・同級生
H 黒ずくめの集団・同級生
I 黒ずくめの集団・同級生
J 黒ずくめの集団・同級生
K 黒ずくめの集団・同級生・最後のロボット
L 黒ずくめの集団・Fの上司 役人
M 黒ずくめの集団・Fの上司 役人
N 黒ずくめの集団・Fの上司 役人
P Bの母
Q Bの祖母

幕開け

真つ暗な舞台。無音。ゆっくりと中央にサス。その光の輪の中に、Aが前習えの格好で立っている。やがて、溶明して周りもぼんやりと明るくなっていくと、周囲に白衣を着た人物（もしくは作業着）が、ころころと倒れている。舞台上には、上手やや前と、下手やや奥に、それぞれ平台の山がある。その台上にもいろいろな姿勢で人が倒れている。やがて、Aの足元近くの人物が、かろうじて体を起こし、Aにさわろうとするが、力尽きてまた伏せてしまう。Aは、やがて、とてもきこえなく下手に歩み去る。暗転と同時に下手花道にサス。中にC。（暗転時に、平台の後ろに何人が隠れてスタンバイする。）

C お姉ちゃん！ お姉ちゃん！

上手花道にサス。中にB。

- C お姉ちゃん、どうしたの？ このころ元気ないよ。コウコウって楽しくないの？
B 大丈夫だよ、未来。心配しないで。

- C でも。
- B ん？
- C ……そうだよね。お姉ちゃんはすごいんだもんね。
- B そ、お姉ちゃんはすごいんだから。(指で「フアイト!」の合図)

サス消える。暗闇の中から歌声。(大塚愛の『さくらんぼ』のサビ)
舞台上には、上手やや奥にひとつ、下手やや前にひとつ、階段状の平台の山がある。舞台上手やや奥にゆっくりとサス。少し上の段でDが歌っている。CDがかかっているように思われたが、Dが歌っていることが分かる。やがてサスの範囲が広がる。段の下でノリながら友人B・Eが聞いている。カラオケボックスらしいことが分かる。歌い終わって、みなで「イエーッ」。

- B いやー、時江、ほんつとにうまいよね。さすが歌手志望。
- D ありがとう。
- E あーでも、さすがに聞き飽きたかも。
- D うるさい。自分だって毎回毎回アニメの歌ばかり。
- E あたしは曲変えてるし。
- D 似たり寄ったりじゃん。今日のアレ、何？ 「桃の木桃の木」って。
- E 「ハイジ」のエンディング。
- D 誰も知らないっちゅっの。
- E 響子は知ってるよね。
- B まあ…。
- E ほらー。
- B でも私、そういうのあんまり出したくないし。
- D そっついの？
- E アニメ好き？
- B うん。変な目で見られるじゃない。
- E 出そうよ、むしろ。あきらめたら、そこで試合終了だよ。
- D 意味分かんない。
- E あたしなんて、アニメ好き、お笑い好き、ばりばり出してるし。
- B よく恥ずかしくないよね、優。
- D あんたはむしろ抑えるよ。
- E 自分だって大塚愛オタクなくせに。
- D 音楽はオタクって言わないの。私の将来の志望なんだから。
- B あ、オーディションまたあるんだっけ？
- D うん。今度こそ受かりたいよー。
- B 絶対いけるって。がんばって。
- D ありがとう。
- E どうする？ 友達がMステとか出たら。
- B おおっ。
- E (Mステのテーマ)チャラララ〜。

- E・B チャララララ〜、チャララララ〜、チャララララッ。(時江、階段降りてくる)
E ピュルルルルル。
B 今夜初出演の時江さんです。
E (タモリのつもり)時江さん、よろしく。
D よろしく〜。あ、でもな〜。
B 何?
D 「時江」って微妙。
E なにが?
D 「時江」の「え」ってところが歌手っぽくないんだよね。
E え? 安室奈美「恵」は? 仲間由紀「恵」とか。
D まあねえ。
E あと、のはらみさ「え」。
D 誰?
E しんのすけ!
D あー。
E 小池徹ペ「え」。
D それ明らかに違う。
E ドラ「え」もん。
D しつこっ!
B それ言ったら、私よ私。
E 何?
B 「響子」ってどうよ。「子」ってところがなんか古くない?
D そっかあ?
B 昔からやなんだよね〜。
E ふーん。あ、でも、時江は、嫌なら芸名にしちゃえば?
B だね。歌手なんだし。
D まあね。
B でもいいなー、夢決まってる。
D 響子は?
B ー、まだ。何の取り柄もないしさあ。
D そんなことないって。まあ、まだ高校入ったばかりだし。
B ってか、なーんかあたし高校入ってからさあ…。
E あたし決まったから。
B えーっ、何?
E フリーター。
D それ、決まったって言わないだろ。
B 大丈夫? 優、「不況」って言葉知ってる?
D きちんと給料もらった方がいいって。
E 屁のつつぱりはいらんですよ。
B もー。なんでフリーター?

E 「フリー」って響きがいいよね。ありあまる自由な時間。
D 何したいの？

E 半日はアニメ、半日はお笑いに溺れる日々。

B そんなんで人生やっていけないって！

E いけそうな気がする〜。

D なんでよ！ 絶対後悔するよ。

E 我が生涯に一片の悔いなし。ドコーン！（ポーズ）

B ラオウ、怒ってきそう。

D ？

E じゃ、「さくらんぼ」出たし、おしまいにする？

D スルーかよ、せつかくの忠告。

E よし、ラーメンでも食べて帰ろっか。

B えー。

D また金龍？

B たまには女子高生らしいところこうよ。

E いいじゃん。食べ盛りだし。

B・D えー。

三人立ち上がり、上手に去る。サスやや暗くなると同時に、下手寄りのサスが点く。中に、一人の少女Aが倒れている。サスの中に、小学生Cが通りかかり、じいっと見つめる。溶明。
上手からB・D・Eがやってくる。

E いやー、満足。

B 優、なんで二杯も食える？

E 二杯目は別腹。

D いや、使い方間違ってるし。

E お腹の中で塩と味噌がコラボ。

D もー。明日はパフェ行こ、パフェ。

B 賛成。よし、ほんじゃ。

D またねー。

E ばい。

B ばいばい。

D・Eは上手に去る。CがBに気づいて、Cの前に回り込む。

C お姉ちゃん。

B あ？ 未来？ どうしたの？

C 落ちてる。

B 落ちてる？ 何が？

C あれ。

B (倒れているAを見て) え? ちょっと!

B、慌てて、倒れているAに駆け寄る。

B これ、落ちてるって言わないの。

C 違うの?

B 倒れてるのっ。

C 起こす?

B ちよっと待って。

B、Aの様子を確認する。脈を取ろうと右手を握ると、かすかに力ちつと音がする。非常にぎこちなく、むっくりとAが上半身を起こす。

B あ…、気が付いた? よかったー。

C お姉ちゃん、だあれ?

A ……。

B 大丈夫? 分かる?

C もしもし。

B 立てる?

A 立つ……。

非常にぎこちなく、Aが立ち上がる。よろけるので、二人が両脇から支える。

B 歩ける?

A 歩く……。

A、ゆっくりと歩き出す。二人、脇から支えたまま、下手に歩き出す。

B じゃあね、うち行こう。薬局だから、なんかあるよ。

C 気をつけてね。

B 急がなくていいから。

まがまがしいME。上手下手から、黒ずくめの集団が登場する。人間的な感じがしない動きで、舞台上をあちこち何かを探し回る。なかなか探し当たらない様子で、また上手下手にはらばらと去っていく。入れ替わりに、Aを支えたB・Cが下手から入ってくる。

C ただいまあつ。

上手から、O登場。

Q おかえり。

B おばあちゃん、お母さんは？

Q 店だけど。その子は？

C 拾った。

Q へ？

B ばか。そこでね、なんか具合悪そうだったから。

Q 大丈夫かね、歩かせたりして。

B まあ、なんとか。居間で休ませてあげていい？

Q ああいいよ。(Aに)大丈夫かい？

A . . .

Q 吐き気とかしない？

B なんかずつとぼーっとしてるのよ。

Q 頭でも打ってなきゃいいけどねえ。

A を、三人でゆっくり座らせる。

Q あんまり動かさない方がいいねえ。

B 分かってる。

Q ゆっくりしてって。

Q は上手に退場。

B 大丈夫？

A . . .

B なんであそこに倒れてたか覚えてる？

A . . .

B 未来、おばあちゃんに飲むものもらってきて。

C うん。

C、上手に引っ込む。B、Aに呼びかけるが無反応。やがて、Aの右手親指を握る。

かすかに力ちつと音がする。いきなりすさまじい起動音がして、照明が真っ赤に変わる。Aがむっくり立ち上がる。すごく機械的な動きでそのへんを歩き回る。

B 何これ？

ゆっくりと照明が元に戻り、起動音が静かになっていく。それにつれて、Aの動きが滑らかになっていく。

A が口を開く。

A 各関節部分、試運転完了。

B、おそろおそろAを見つめる。

A はじめまして。私は高機能人型機械少女タイプS508です。通常モードで起動しました。現在、本体は基本的な機能を残してメモリーがリセットされた状態になっています。お客様のライフスタイルに合わせて、行動パターンの情報をカスタマイズしていただきます。それでは、S508の特徴についてご説明いたします。ご使用の際にはこの説明の中の注意事項を遵守されますようお願い申し上げます。もし説明をお忘れの場合は、再説明スイッチを押してご確認ください。それでもお分かりになりたくない点は、当社のサービスサイトにアクセスしていただき……

B (とめどなくしゃべるのに不安になってきて あたりで、割ってはいる) ねえ、何言ってるの? 説明って何? ねえ、ちょっとしつかりしてって、ねえっ!

C おばあちゃん!

C、上手に駆け出していく。

B、思わずAの腕をつかんで止めようとするが、カチッと音がして、いきなりAの言葉が英語に変わる。

びっくりしたBがまた腕をつかむと、フランス語に変わる。またつかむと、中国語に変わる。パニックになりかけたBがまた腕をつかむと、やっと日本語に戻る。

A 以上、お分かりになりにくい点は弊社までお問い合わせください。

B ……何、今の?

A 仕様説明です。

B ……なんか言葉がころころ変わったけど。

A 音声切り替えスイッチが押されました。

B スイッチ?

A 通常モードで作動しました。

B ……一体あんた、何?

A KHK製作、高機能人型機械少女タイプS508です。

B 人型機械?

A はい。

B 要するに、…ロボットだって言いたいわけ?

A 一般的な名称としては。

B ……まずい。電波系の人連れこんじゃった。

A いえ、遠隔操作はできない構造になっています。

B ……どつしてもロボットだと。

A はい。

B なんか証拠ある?

A 証拠。

B ー、人間に絶対できないことか。

A では。

A、首を不自然に回転させると、ME。照明が青く変わって、上下から大勢人が出てきて、二人の周囲を踊

って回り始める。

B 何何？

A 立体映像です。

B 映像？

B、周囲の人に触ろうとするが触れない。体をすり抜けるような感じ。やがて、MEのフェイドアウトと共に、人々は来た方向へと消える。

A どうですか？

B いや、…でもなんかそついう新型のテレビとか隠して持ってるんじゃないの？

A テレビは別です。前の壁をこらんください。(手を正面にかざす。できれば二人の顔に青白い光。)

B おー、映った。憧れの大画面！ あれ？(画面の右上隅を指して)『アナログ』？

A 地デジはまだ…。

B えー…。

A 映像機能以外では。

B まだあんの？

A …何か要らないものは？

B あ、えーと…。

A、学校の鞆を漁ると、古いノートが出てくる。

B じゃ、これ。

A では、右手の人差し指を押してください。

B あ、はい

カチツと音がする。ME。

A 戦闘モードが作動しました。

B 戦闘モード!?

A ノートをできるだけ体から離してこちらに向けてください。

B ……こつ？

B、人差し指でノートに狙いを付ける。

A 攻撃命令をください。

B へ？ あ、え、あの一、はいどうぞ。

A イエス・マスター。

一発銃声がして指から弾丸が発射される。B、思わずノートを取り落とす。

B 何？ 今の。
A 確かめてください。
B へ？

B、ノートを拾い上げると、真ん中に穴が開いている。
B げっ！ その指、銃になってんの？
A はい。

B あぶなっ。ちょっと勘弁して。

A モードの解除は、首の後ろの中央を押してください。

Aが後ろ向きになって、位置を示す。Bが押す。

A 通常モードに戻りました。

B 何？ あんたアメリカかどっかの兵器？

A いえ、日本製です。KHK、高機能人型機械研究所。

B はあ…。

間。

B ほかにモードってあるの？

A 右手の中指を押してください。

B、押す。色っぽいME。いきなり、A、横座りになって、手招きをする。

A カモン。

B 何？

A セクシーモードが作動しましたあん。

B セクシーモード。そっかあ、やっぱりいるか、そっいつの。

A ご好評をいただいていますっ。

B でも、女なんで。

A うっん。あなたを新しい世界に連れてって、あ・げ・る。

B 行ってたまるかっ。解除解除！

B、くねくね動くAの頭を前から押さえて、首のうしろに手を伸ばし、スイッチを押そうとする。客観的に見ると、濃厚なキスシーンのように見える。上手からCが入ってくる。

C おばあちゃん出かけてた…

ME (チゴイネルワイゼン)。ようやく、スイッチを押して、はっと気付くB。Cと少しの間、見つめ合う。

C お姉ちゃんのはかーっ！

B おーい…。

Cが上手に駆け去る。ややあって、下手からDとEが入ってくる。翌日のBの部屋になっている。

B …というわけ。

D あー、なんといっているのか。

E 未来ちゃんは？

B 昨日から絶対目を合わせてくれない。

D・E あー…。

B それよりさ、どうする？ この子。

D うーん。

E 来いっていつから来たけどさあ。

D 正直、相談されても。

E ロボット拾つか、普通。

B 落としたやつが悪い！

D ま、そうだけ。

E 元あったとこに置いてくるとか。一割もらって。

B できるか！

D 家族は何て言ってるの。

E ロボットって知ってる？

B お母さんは…、お父さんいなくなってからショックに極端に弱くなってるから。

D 言えないか。

B おばあちゃんも体弱ってるし。

D じゃ、家族には秘密？

B 未来には口止めたけど。帰るところが分からなくなってるってことにした。

E 記憶喪失？

B まあ、そんな感じ。

D 置いといていいって？

B しばらくの間だけ。

E ふーん。

E、Aを見つめているが、何か思いついたらしく、Aの右手を指して。

E これさあ。

B 押さないでよー！

E 押さないって。

D いやあ、あんたは絶対押す。

- E 分かる？
- B やめて！
- E いやでも、指ってさあ、五本あるよね。
- A はい。
- E これが何だっけ？
- B 通常モード。
- E 今がそれね。で、戦闘モード、セクシーモード、あとは？
- A 薬指は救急モードです。
- D あ、怪我の治療とか。
- A はい。けが人の迅速な運搬など。
- E 薬指だけにね。なるほどー。で、小指は？
- A ガンダムモードです。
- B・D・E …は？
- D 何それ。
- E 押している？
- B やめてって、(カチッ)もう押してるし。
- M E。ガンダムテーマソング。皆で周りを見回して。
- D 何？
- B 「機動戦士ガンダム」。昔のロボットアニメ。
- D へえ。
- B どうすんのよ、またバキューンってきたら。
- E や、ちょっとした先走りってやつだから。若気の至り？
- A 認めたくないものだな。若さゆえの過ちというものを。
- D は？
- B 何今の。
- E もしかして。
- A 会話中の言葉を可能な限りガンダムのセリフに置き換えるモードです。
- B は？
- D くだらねー。
- E すごいすごいっ！
- B 誰？ そんなの付けたの。
- A 開発主任です。
- D なんてそんなこと。
- A 坊やだからさ。
- E 出た！
- B 仕事であそぶなよな。
- E あたし、気が合いそう。
- D ばかばかし。

E おもしろいじゃん。

D もつつきあってらんない。ちょっとトイレ。

B あ、どうぞ。

A させるかーっ！

D させてよ！ 我慢できないから。

A それでも男ですか。軟弱者！

D 女だよ！ 明らかに。

D、怒りながら上手へ。E、何か思いついたらしく、大急ぎで下手側に走って行って、

E ねえねえ、こつち来て。

A いきまーすっ。

E あそこのあれ取りたいからさあ、ちょっとここにしゃがんで。うん、そうそう。

A、四つんばいになる。E、上にかかる。

A おれを踏み台に(したーっ!?)

Aのセリフが終わらない内に、Bが近づいてぶつとスイッチを切る。MEも途切れる。

B 二度とこのモードには入れません。

E ちえーっ。響子も好きなんでしょ、ガンダム。

B そっという問題じゃないのっ。

D、上手から戻ってくる。

D 思ったんだけどさあ、名前付けない？

A 名前。S508ですが。

D そんな携帯みたいな番号、名前じゃないから。

B 何がいい？

このあたりから、上手よりCが近づいてきている。

E 女の子らしいの。

B 女の子らしい？

E 「子」の付く名前は？ アイコ？ 涼子？ 祥子？

B いやー！

E ん？

D ほら、響子も子が付くじゃん。子が付くと、なんか嫌らしいから。

E ああ。

- D 言ってたよね、昨日カラオケで。
- B ああ、うん。
- C やっぱり…。
- B あれ？ 未来？
- D いつからそこにいた？
- E どした？
- C やっぱり、いやらしいんだ。
- E え？
- C 名前に子が付くせいで、あんなこと…。
- B おい、未来？ 未来？
- C お姉ちゃんのばか…。
- C、上手に駆け去る。
- D どうする？
- B いや…、も、ほっといてやって。
- D いいの？
- B うん。
- D そだね。なんだかんだで未来ちゃん、お姉ちゃん大好きだし。
- E で？で？ なんて名前にする？
- B こういうのどうかな？
- D 何何？
- B … 明日香。
- D 明日香。
- E いいね。
- D うん、いい、いい。
- B じゃ、明日香で決まり。いい？
- A 明日香…。
- E いい名前だつて。
- A しかし、名称の変更機能パスワードが分からないので。
- B いいんだよ。みんなで呼び合う名前がほんとの名前。
- A ほんとの名前？
- B そつ。
- E よし、じゃあ、お祝いだ。
- E、上手に引っ込み、花を一輪持ってくる。後ろからこもつてくる。
- D あ、未来ちゃん。
- E はい、これ、名前がついたぞ記念。
- B ほかの言い方ないの？

- E ほか？
- B 命名記念とか。
- E ああ。

C、にやつと得意そうに笑ってEを見る。

- E 何？
- A これ…。
- E あ、あげる。プレゼントだよ。
- A プレゼント。

A、いきなり花そのものをわしづかみにしようとする。みんな、慌てて止める。

- E ちよちよちよっ。
- D 花がつぶれちゃっ。
- B 下から持って。茎のどこ。
- A つぶれる？
- B そ、なんて言えばいい？ えーっと、組織が破壊されてしまっ。
- E おーっ。
- A 組織が。

A、花を受け取るが、まじまじと見て。

- A この部分は既に組織が破壊されていますが。
- B そこ茎だから。
- A こちらは破壊されてもいい？
- B いやー、っていうか。
- D きれいでしょ、そっちは。
- A きれい？
- D 分かんないか。
- C あのね。
- A ？
- C お花は一生懸命咲いてるから、優しく触らないとダメなんだよ。
- A 一生懸命？
- C うん。先生が言ってた。
- B そうか、一生懸命か。(Cの頭をなでる)
- D でも、意外なところが分かってないんだね。
- B 人間っぽいけど、人間になりきれない感じ。
- C 赤ちゃん？
- B んー。

E じゃあさあじゃあさあ、あたしたちで、明日香を育てていこうよ。
D 育てる？

A ユーザーの必要に応じて、カスタマイズできるようになっています。
C カスタマイズって？

B 使い勝手のいいように自分で変えること。ほら、未来のクロックス、好きなものいろいろ付けたる？

C あー、カスタマイズ！

D でも明日香、それとは違うよ。

E うん、カスタマイズっていうか、

C カスタマイズ！

E うるさいよっ、お前も今知ったばっかだろ。

C お姉ちゃんは前から知ってたもん。

E あのなー、はっきり言っけど、響子なんて高校じゃねえ…。

D 優！

C お姉ちゃんはずいんだぞ。

D そうそう。

B …明日香はさあ、カスタマイズじゃなくて、成長してくんだよ。

A 成長？

B 昨日より今日、今日より明日（あした）って。

A 人型機械は成長しません。年もとりません。

E ー。

D ずうっと今日ってことか。

B じゃ、…あたしの明日を分けてあげる。

A 分けて？ でもそんなことをしたら響子さんの明日が…。

B 大丈夫。明日は減らないから。（指の合図）

青転。明るいME。Aを囲んで四人がいろいろ教えている仕草。やがて、平台上にサスが点き、そこへEがAをひっぱっていく。

E どう、すっごいいい眺めでしょー。

A いい眺め。

E ほら、見て。

A はい。

E 何が見える。

A 指です。

E え？ あー、えっと指の先。

A 爪です。

E 爪の先！

A 剥がしそこねたマニキュアが。

E …たしかに…って、おちよくってる？

A え？

E この指ね、矢印。

A 矢印。

E だから、こつ指したら、指じゃなくなつて指してる方にあるものを見る。

A はい。

E ……。

A ?

E いやあの、『あつ、そうかあ！』とかないわけ？

A 『あつ』？

E 感動がないよ、感動が！

A そういうルールですか？

E ルールってか、反応？

A 反応。

E そ。リアクションよ、リアクション。なんかリアクションして。

A はい。

E リアクションなしだと会話じゃないの。ほら、お笑いだってボケだけじゃなくてツッコミがいるでしょ。

A はい。

E いや、だからそこで…。

A 『あつ、そうかあ！』

E そうそう、あたし、今すつこいいいこと言つたんだからねー。

大塚愛の歌流れる。上手平台のサスがつき、中にD、ウォークマンを聴いている。Aを呼び寄せる。

D ほら、この大塚愛のなんていうか、せつなさを分かつてほしいわけ。

A せつなさ？

D ほら、ここ！ 亡くなった恋人に対する気持ちがよく表れてるでしょ。

A 亡くなった？ でもそんなことは…。

D そう。言っていないけど、感じるわけよ。ぶわーっとう、イメージが広がってくるのよ。

A 広がって。

D そう、ほんのちょっとした言葉でうわーっと広がるわけ。

A ああつ！ そうかあ。

D 分かった？

A 圧縮されてるわけですね、情報が。

D は？

A では解凍ソフトを入れてください。

D 解凍？

A 圧縮データを開くソフトです。

D うーん…、えーと、それだとさあ、誰でも同じに感じるってことになるよね。

A もちろん。

D 歌ってさあ、聞く人ぜんぶ感じが違うの。

A 違う？

- D そう、だから歌は、自分の、うーん、心で解凍？するんじゃないかな。
A 心。
D 明日香もできるよ、きつと。
A …。

さらにサスの位置がずれる。中にBとCがいる。

C 明日香、明日香！

Aがサスの中に移動してくる。

- A はい。
C 鶴折ろ。
A 鶴？
C これ。お姉ちゃんに教えてもらったんだ。
B この折り紙を折って、それを作る。
A これと同じものを再現すればいいですね。
B そつ。いい？

C、一つ一つ折り方を見せようとするが、できあがりを受け取ったAは、鶴を観察、解析して、折り紙にレーザーで一気に折り線を刻印する。そして、あっという間に完成させる。

- C はやつ。
B 何したの？
A あらかじめ、折り線をレーザーで刻印して、一気に折り上げました。
C すごーい。
A 正確に速くできます。
B うーん。
A だめですか？
B … 鶴ってね。例えば、千羽鶴とかあるのよ。
A 千羽。一千個作る。
B そつ。
A そつなるとさらに効率を上げるには…。
B そこなんだよなあ。
A はい？
B 未来、千羽鶴の説明。
C ーとねえ。あのね、例えば、重い病気の人が早くよくなりますよんって言ってみんなで作る。
B そつそつ。たくさんの方がひとつひとつ折りを込めて折るとこに意味があるわけ。
A ひとつひとつ。
C そつ。心が大事。

- B こればっかは買って済ませる人いないわけよ。
- C あのね、一緒にひとつずつ折るんだよ。
- A 一緒に。
- B きれいに折るのは大事だけど、でも、工場みたいに作ったら、いくらきれいでも意味がないんだって。
- A 意味がない。
- B あ、ごめん。でも、一緒に手でゆっくり折ってみようよ。
- A はい。
- C 明日香。
- A (向く)
- C ずっと一緒にいようね。
- A はい。…でも。
- C 何？
- A 私には帰らなければいけない所があるような気がします。
- B 帰らなければいけない所？
- C おうち？
- A いいえ。
- B 工場ってこと？
- A (首をかしげる)
- B じゃ、どこ？
- A さあ、その名前がどうしても思い出せないのですが。
- B ふうん。

照明がゆっくり変わり、三人を囲んで、大きなサスが当たる。ゆったりした心の静まるM E。三人が何か話しながら鶴を折っている。やがて、Eも加わり、さらにDも加わる。それにつれて、舞台の上に、一つまた一つと大きな鶴が現れる。

C あ、やっぱり明日香、うまい。

ゆっくりと暗転すると同時に、上手下手の花道にサス。上手にL・M・N、下手にFが浮かぶ。

- M フジワラ。
- F はい。
- N ずいぶん報告が遅いようだけれど。
- L まーだ見つからない？
- F なかなか端末にひっかかりません。
- N 悠長なことはやってられないのよ。
- M 危険性、分かっているよね。
- F さすがにあれを目の当たりにすると。
- M あんたの丸投げのせいだけだね。(Lを見る)
- L おいおい、姉貴も賛成したよね。(Mを見る)

N ちよっと、今はそんな場合じゃないでしょ？

L お前、口出すなよ。

N お姉さんたちがいい加減だから、流通部門としては困っているの！

M ちよっと、こいつと一緒にしないで。

F あの！ もつよろしいでしょうが。

L・M・N さっさと行きなさい！

N 見つからなかったら、あなたも危うくなるわよ。

F 分かっています。

L 急げよ！

F はい。

M 次が起きる前に始末しないとね。

花道消える。ざわざわした声が暗闇から聞こえ、時折シャッター音やフラッシュ音がみえる。舞台上が澄明。大勢の同級生が、わあわあ言いながら、A・B・D・Eの四人を囲んでいる。手に手に携帯を持って、Aをばしやばしや撮っている。以下、同級生役は、指定されたセリフ以外も、ざわざわと勝手にしゃべっている。Qが上手から登場。続いて、Pも。

Q どうしたね。この騒ぎは。

B なんか、みんなが明日香に会いたいって。

Q え？ その子、歌い手さんか何かだったの？

B ーん。みんな親切なんだよ、身元を探してくれるって。

Q ああ、そりやありがたいねえ。

P お茶いれる？

B いい、いい。店行って！

P・Qが上手に去る。Bは胸をなでおろして、振り返り、Eをにらむ。

B 優！

E ごめん！

B なんて明日香のことしゃべったりするのよ。

D こつなるに決まってんじゃん。

E ちよっと自慢したくてさあ。

B 全く口軽いんだから。

I 響子！ 響子！

B 何？

I ほんつとに、ほんつとにロボットなわけ？

B うん。

J すげーっ！

K 何かやって何かやって。

D 何かって？

K や、だから、ロボットらしいことよ。

H はいはいはい！

K 何？

H 電子頭脳とかすごいんじゃないの？

K おー、そつなの？

B たぶん。

E もうね、電子辞書なんか比べもんになんないよ。

J すげーっ。

I じゃあ、えっと、「IMF」って何？

A インターナショナル・マニタリー・ファンドの略。国際通貨基金。為替相場の安定と自由化、及び国際

収支の均衡を図ることを目的に、ブレトン・ウッズ協定に基づいて1945年設立された国際金融機関。

J すげーっ。

G じゃあ、「あなたの趣味は何ですか？」「はい、じゃあ英（語）、中国語にして。

A ニーダ・アイハオ・シー・シエンマ？

J すげーっ。

G あと何ができる？

K 空飛べるとか。

A 飛べません。

J すげーっ。

K うるさいよ、お前。

G でもほんとに便利だよね。

B 便利？

H だよねー。辞書要らないし。

I っつか、宿題全部やらせればいいし。

K 響子、いいの拾ったなー。

J っらやましーっ。

B ……いいかげんにしろっ！

ー同、しんとする。

B もう帰れ！ 近所迷惑だから。早く早く！

同級生たち、「なんだよー」などと言いつつぞろぞろ下手に押し出される。残った五人 しばらく黙っている

E あの…、ほんとごめん。

A 何を怒っているのですか。

B あの子達、明日香のことをモノみたいに。

A モノですが。

B ちがうよ！

A 違います。チタンとタンゲステンと…。

B そういうことじゃないの！

A ?

D …あのね。モノっていうのは、どういったらいいのかな。えと、そう、別のモノと取り替えが利いちゃうってことなんだよ。

A その通りです。それがそんなにいけないことなのですか。

B 何がよ。明日香がいなくなっても、別のを持ってきたら、それで間に合うってことなんだよ。それでいいの。

A はい。同じ型の人型機械を持ってくれば。

B そうじゃないよ！ 明日香は明日香なの！

D そう、世界でたった一人なんだよ。モノだなんて言っちゃダメだよ。

A …はい。

E ごめんね。

D まったく。

B それから、もう敬語いいから。タメ口で話して。

A タメ口。

E ああ、そうだよな。

D そう、友達だし。

A 友達？ いつから？

E しってる？ 友達ってね、気づいたらもっとなってるの。

B だね！ 明日香、友達！

A …友達。 響子！ 時江！ 優！

上手から、Cが入ってくる。

C どうしたの！。なんかものすごい大勢人が出てったけど。

B 大変だったの。

D 優がしゃべっちゃって、学校のみんなが明日香を觀に来ちゃったの。

C えー。しっかりしろよー。

E おま（えに言われたくない）。…。ごめん。

D あー、なんか疲れちゃったね。

E ねー、お腹空かない？

C 空いた！。

E じゃ金龍行こ金龍。

C やったーっ。

D またあ？

B 飽きないねえ、毎度毎度。

E じゃあさあ、金龍のおじさんに頼んで、みんなで作らせてもらわない？

C 作る？ すごーい。優、たまにはいいこと言う。

E たまに？

D でも、そんなこと出来んの？

- E なんてったって常連ですから。
- B たしかに。

上手奥にサス。中央にD。「ラーメン3分クッキング」のサビを歌い始める。「みーそ」周りにダンサーが大勢出てくる。一緒に歌いながら、珍妙な踊りをする。また何人かのダンサーが五人にエプロンをつけさせる。歌と踊りをバックに、D以外の四人はねぎを刻んだり、麵をうったり、チャーシューを切ったりして、ラーメン作りのパントを繰り広げる。「できあがり」
「いただきますっ」で五人が一斉にラーメンを食べる。

- E さいこーっ。
- C ふー。
- D いけるね。
- C おいしい？
- A はい。
- D へえ！ 味が分かるんだ。
- A いいえ。
- E でも、みんなと一緒に食べてるからね。
- B そっ、明日香、これが『おいしい』。
- A うん。

皆で顔を見合わせて笑う。照明変わる。上手下手の花道にサス。それぞれに、LMNとF。

- F 見つかりました。
- L なーにを偉そうに。
- M 遅いでしょ。
- F はい。
- N やつと端末にひっかかったってわけ？
- F いえ、携帯のサイトです。
- L・M・N は？
- F 女子高生の情報網の広さと、口の軽さには、CIAも敵いません。
- M 何、こじやれたこと言おうとしてんの？
- N 高校生が見つけたということ？
- F とうか、拾ったよつです。
- L 拾ったあ？
- M 誰？ テロ組織が捕獲してるって言った人。(Lを見る)
- L 姉貴こそ、中東国家の仕業だつて。(Mを見る)
- N 結局アメリカが絡んでるってことになったんじゃないかっけ？
- F 一般家庭に転がり込んでました。
- L あー、めんどくせー。
- M すぐに回収して。

N 民間人が犠牲になる前に。

F はい。

三人のサス消える。

F S508、聞こえていたら、君の生まれの不幸を呪うがいい。

Fのサス消える。同時に溶明。中央で、AがD・E・Cと談笑している。もう普通の女子高生と全く変わらない自然な会話。(ポケモン談義をやって盛り上がりつつある。)それを、上手から出てきたBがじっと見ている。やがて、D・Eは帰り、Cは遊びにでかける。Bとすれ違う。

D あ響子、お帰りー。

E 店？

B うん。ちょっと手伝い。

D じゃね。

B うん。また明日。

E ばい。

C 遊びにいつてきまーす。

B 車に気をつけて。

C はい。

A お帰り。

B ただいま。

A お店忙しい？

B まあ、インフルエンザ騒ぎも一段落したし。

A そつ。

B ……。

A ？ どうかした？

B ……なんかさあ。

A ん？

B ぶつちゃけ、最近、明日香といると苦しいんだ。

A 苦しい？ 電磁波が。

B 出してないでしょ。

A 鉄アレルギーー。

B たぶん違う。

A はっ、加齢臭！

B (Aのおでこを張る。)

A (叩かれた所を手で押さえ、それを目の前にもってきて)ハッ、血だ。

B あり得ないから。…会話のテンポがよすぎ。

A ごめん。

B いいけど。…あのさあ。

- A 何？
B なんて、明日香だけがどんどん素敵になってっちゃうの？
A ?
B どんどん人間っぽくなって、女の子らしくなって、いろいろ出来るようになって。
A 響子たちのおかげ。
B (少し怒って) そうじゃなくて。
A 何？

下手の山の上に、何人かの人が現れる。折り紙の花びらをひらひらとめどなく舞わせる。

- B 私はさあ、これ以上何かできるようにはならないと思う。
A そんなこと。
B あるって。高校入って成績が落ちだしさ。中学校の時の方が、ずっと頭良かった気がする。
A だってほら、未来ちゃん、お姉ちゃんのこと、いつつもすごいって。
B 未来は、ちっちゃい頃から私の後ばかりついてきた子だから。
A ……。
B 思いこみなんだよ。刷り込みっていうか。今の私を見てないんだよ。
A そんなことないって。
B なんか最近、私っていてもいなくてもいい感じ？
A ちがう。
B 私、成長するほど、自分に値打ちがなくなってく気がする。
A … 値打ちが？
B (立ち上がって、花びらを拾いながら) 成長って何？ 魅力が、うるこみたいに一枚一枚剥がれ落ちていくこと？ じゃ何のために生きてんの？
A 響子。
B みんな将来のこと決めてるし、未来だってこれから大きくなっていくし、ロボットの明日香も素敵になつていくのに、あたしだけ、あたしだけ取り残されてる。
A そんなことない。
B どう違うの？ 明日香、頭いいんでしょ？ あたしはどうすればいい？ ばしつと答え出してよ！
A それは…。
B あたし、明日が来るのが毎日怖い。
A … 私には言っておげられる言葉がインプットされてない。
B 役立たず！
A ……。
B あ…、ごめん！ あたし…、ごめん…。
A ……。

突然、上手から、Cが駆け込んでくる。

C お姉ちゃん！

B どうした？

M E。黒ずくめの人物たちが、わらわらと上手からなだれこんでくる。

B 何こいつら！

A 端末だ！

B たんまつ？

A 近くにあいつがいる！

B あいつ？

A 未来ちゃん連れて逃げて。

B 逃げる？

C どこへ？

A あそこの真ん中突っ切って。

B はあ？

A 大丈夫、あいつら、人間を攻撃できないから。

C 攻撃？

A 合図したら逃げて。

B え？ え？

A ゴー！

BとC、上手に逃げかける。Aが頭を回すと周囲にD E P Qが現れる。

B あれ？ みんないつの間？

A はやく！

B C、上手に去る。A、四人に周りを囲ませて、じりじりと黒ずくめに迫る。黒ずくめは後退し、その隙に上手に駆け去る。去り際に、黒ずくめの一人がAの足をつかむ。

A あっ！

何か損傷したらしく、Aはびっこを引きながら去る。入れ替わりに、Fが上手から駆け込んでくる。

F ちくしょう！ 立体映像だ。追え！

黒ずくめの人物たちとFも上手に大慌てで追う。D Eは下手にP Qは上手にゆっくり去る。入れ替わりに、上手からA B Cが走ってくる。Bは携帯で話しながら。上手から、DとEが駆けつける。Dも携帯で話している。

E いた！

D どうしたの？

- B なんだか分からない。
- C 真っ黒なのがいつぱい来た。
- D 何なの？
- A フジワラの端末。KHKから送り込まれてきたんだ。
- D 明日香、あんた昔の記憶があるの？
- A あいつら見たら、一気に思い出した。っていうか、たぶん、あっちから何か流れ込んだ感じ。
- B 何しにきたの？ あれ。
- A たぶん、私を処分するために来たんだ。
- E 処分！
- D 処分って？
- A 私を解体して、記憶を消去して、抹殺する。
- B・C・D・E えええつ？
- A たぶん、作業用機械に作り替えるんだと思う。
- B どうして？
- A 分からない。きっと私が何かやったんだ。
- D 何かって？

上手から、PとQが駆け込んでくる。Pはかなり苦しそう。

- Q 響子、あれ何だい？
- B ごめん、おばあちゃん、私もよく分かんない。あとで説明するから。
- Q 説明って…。
- B お母さん、大丈夫？
- P ちょっとびっくりにしちゃって…。
- B …未来。
- C うん。
- B 分かってるよね。秘密って。
- C うん。
- B いい？ 未来がしっかりして。
- C 何？
- B 町のおじさんちへ、おばあちゃんとお母さんを連れてって。
- C え？ お姉ちゃんは？
- B 私は行けない。明日香を逃がさないで。
- A 響子。
- B みんな協力してくれる？ 危ないかもしれないけど。
- E うちらで守れる？
- B さつき、明日香が立体映像であんたたちを投影したら、襲ってこなかった。
- D 人間を傷つけるわけにはいかないってこと？
- A そう。
- E ああ、それなら（やれるかも）。

A 響子、私は…。

B 何も言わないで。友達だよ。

A ……。

B 未来。頼んだよ。

C 無理。お姉ちゃん、お願い、一緒に来て。

B (深呼吸して) 未来。お姉ちゃんは？

C すごい。

B そう、お姉ちゃんはすごいんだから。お姉ちゃんが言ったから大丈夫。未来ならできる。

C ……うん。

B よし、えらい。じゃ、行きな。

C、PとQをかばいながら、上手に去りかけるが、心細そうに振り返って叫ぶ。

C お姉ちゃーん！

B、うなづいて、指の合図。Cもうなづき返して去る。

B そっか。あたし、やっぱりお姉ちゃんなんだ。

D 行こうか。

E うん。

四人は下手に走り去る。激しいME。黒ずくめの人物たちが、上手下手から出てきて右往左往する。上手からFが登場。Fが首をふって合図すると、黒ずくめたちは台の背後に隠れる。そこへ下手からAとBが駆けってくる。中央に来た所で、台の背後からわらわらと黒ずくめたちが現れて二人を取り囲む。

F もう逃げられんぞ。

下手から、DとEが駆け込んでくる。Aの周りを三人で取り囲む。

F そう何度も同じ手が通用すると思うな。

黒ずくめたちが一斉に飛びかかるが、三人に実体があるので、触れずに引っこむ。

F 何？ 本物だと？

B 友達に触るな！

F 友達？ そいつは機械だぞ。

D 分かっているって。

E 友達なら関係ないっ。

F 人間を盾にするとはな。あきらめろ、S508。君の生まれの不幸を呪うがいい。

B あ。

D 何？
B 今のガンダムのセリフ？
E シアアだよ、シアア。

三人、うなづきあつて、一斉にFを指さし、

三人 開発主任！

F な、なんで分かった？

E 明日香にガンダムモード入れたのあんたでしょ。

D このオタク！

F いいじゃないか。三十周年なんだから。

E ふざけたおせよ！

D あんたが言う？

E ファーストガンダムに偏りすぎだっちゅうの。

B そっちか…。

D ？

B 明日香をどうするつもり？

F 明日香？

A 私。

F パスワードもなしに、名称変更したのか。はっ、こりゃ驚いた。さすが、制御不能になっただけのことはあるな。

B 質問に答えて！

F 処分するんだよ、もちろん、故障の原因を徹底的に分析してからだけだな。

D 故障？

E 明日香が？

B どこが？

F 言っとくがな。そんなに近くにいとそろそろ危ないぞ。

F、近づいて、Aの肩をつかもうとするが、その腕をEがつかまえて、かみつく。F、痛がってふりほどく。

F かじった？ (泣きそうな顔になる) おやじにもかじられことないのにー！

B おやじにもって…。

E かじられたことある？

D (首を必死にふる)

E だよー。

D かじらせてたまるか！

B ねえ、明日香のどこが故障？ もうほとんど人間って言っていいくらい完璧なのに。

F そこだ、問題は。これはな、人間じゃない。あくまで、心おきなく使える道具なんだ。

E これって言うな！

F だから、敢えて『人型機械』って呼ぶわけだ。うちは。

- B それじゃ友達になれないから、うちらは『明日香』って呼ぶの。
- F 機械は機械。機械ってのは、ずつつと同じ機能で古くなったら買い換える。そついうもんなんだ。
- D 古くなったって使えばいいじゃん。
- E 愛着が湧くし。
- F 変に物持ちがいいから、火い吹いて火事になったりするんじゃないのか？
- D それ、ストーブの話。
- F いいか、この国は使い捨てて発展してきたんだ。全員テレビ買い換えろって強制できる国だぞ。
- D ……。
- F もしテレビが勝手に地デジに進化したらどうなる？ スーパーサイヤ人みたいに。テレビ売れないだろ。会社つぶれるだろ。国もやってけなくなる。そんなもの、存在しちゃあ困るんだ。
- D ちよつと待って、でも、カスタマイズ機能つけたのはあんたでしょ。
- F その通りだ。だから制限を設けた。
- A 制限…。
- F ああ、それなのに、そいつはな…。
- B 明日香、右手出して。
- E 何何？
- B それ以上近寄らない方がいいよ。
- F おい！ そこを押したら。
- B 知ってるよね。後悔しないで。
- F おいやめる。
- B 問答無用！ いくよつ、戦闘モード！
- A (カチッ)うぶくん。
- B しまったああつ。
- F だからやめるって…。
- E わざとやってる？
- B ちがうちがう、だからね…。
- 話している間に、Dが駆け出して行って、Aのスイッチを押す。機械音。
- A 戦闘モード入りました。攻撃命令をどうぞ。
- D 響子！
- B え？ あ、えつと、うーん。
- E 早く！
- B じゃあ、そいつをしばらく追ってこられないようにして！
- A イエス・マスター。
- A、Fに向けて両手を差し出す。すさまじいマシンガンの射撃音がして、Fがめっちゃめっちゃに撃たれ、体がぐしゃぐしゃになってやがて倒れる。それに従って、周りの黒ずくめもへなへなと倒れる。

B ちよつ！

D やり過ぎでしょ。

E 殺人？

D 逃げよっ。

下手に皆、逃げる。四人はすぐに花道に出てくる。サス。

E どうすんのよ！

B (Aの首の後ろのスイッチを押しながら)「しばらく」追ってこれられないようにって言ったでしょ。

A だから、命令通りに。

D あれじゃ、永久に追ってこれないでしょ。

A うっん。

Aが、倒れているFに視線を向ける。つられてみんな見る。ゆっくりと暗くなり、倒れているFの周りだけぼんやりサスが当たる。不安なME。やがて、Fがぴくりと動く。ぐしゃぐしゃの体が、不自然に一箇所つかシャンカシャンと元に戻っていく。それにつれて、黒ずくめたちもゆっくりと復活する。

E どういうこと？

A 彼も、KHKの人型機械なの。

D は？

B そっいえば、端末って何？

A 黒いやつらは、全部フジワラにつながっている感覚器官のようなもの。

D じゃあ、あいつらも全部含めてフジワラ？

A そう。

F、やがて完全になる。ゆっくりと首だけを下手に向けると、追いかけて、サスの中から消える。黒ずくめたちも従う。

B ってことは？

A すぐに追ってくる。

A、正面を見る。他も驚いた表情で正面を見、見つめ合った後、舞台上へ逃げる。しかし、下手から黒ずくめたちがなだれこんでくる。Dが倒れる。

D あっ。

B 時江！

D 逃げて！

Eが両手を広げて、黒ずくめをせき止める。

E この隙に！

B ありがとう。

EとD、黒ずくめを押し遣って下手に退場。

A 時江！ 優！

B 明日香大丈夫。

A でも。

B 二人は大丈夫だから。

下手花道にスポット。Dが浮かぶ。大塚愛のバラードを歌う。その歌の流れる中、Aの手を引いて、Bが逃げ回る。しかし、上手奥に逃げ込もうとすると、行く手からライトがぱつと浴びせられる。あどすさりして下手前に出ようとする、また正面からライト。下がって、下手奥に戻ろうとすると、またライト。またあどすさりして上手に向かおうとすると、上手から、Fが出てくる。この頃までに歌はフェイドアウトして

F やらせはせんぞ。

B お願い。明日香を助けて。

F 無理な話だ。S508、私を見る。

AとFが見つめ合う。

B 明日香？

A あ、うん？

B もう一度戦闘モード。

A 響子、ありがとう。もういいから。

B 明日香！ あきらめないで。闘って。私のために闘って。

A 響子のため？

B あたし分かった。明日香がいてくれるから、あたし…。

A 響子。…だめなんだ。

B どうして！

A 今、私の帰る場所の名前が分かった。

B 名前？

A うん。

B どこ？

A …たぶん、『孤独』。

B コドク？

声 美しい友情が芽生えたようね。

上手からL・M・Nが登場し、上手の段に上る。

- B 誰？
- M 科学技術省補佐官。
- N っって言っても興味なさそうね。
- L 女子高生相手にどこから説明すりゃいいんだ。めんどくせー。
- B 役人？
- F この国のロボットに関わる行政を取り仕切るお茶の水三姉妹だ。ニックネームは、順に、コバルト、ウラン、ヒゲオヤジ。
- 三人、それぞれにポーズ。
- F あの三人がそれぞれ、ロボットの設計、製造、流通の分野を統括している。
- B 明日香のことも？
- M そう。KHKは政府が出資して研究開発をさせている機関なのよ。国に楯突くつもり？
- B 政府だって関係ない。明日香、いくよ。
- L もー、すんなり言うこときけよ。
- N (携帯を出して) 非常出撃命令28号を要請する。
- ME。四角いロボットが上手からわらわらとたくさん出てきて、二人を取り囲む。
- B 何、こいつら。よし、いくよ明日香。
- A だめ。
- B どうして？
- A こいつらには通用しない。
- M その通り。
- L ロボット開発なんて、このレベルで止めとけばよかった。
- N 命令でしか動かないし、金属むきだしで頑丈だし。リセットの必要もないし。
- L・M・N ねえ。
- F はい。
- B どういうこと？
- M あまりに高機能になりすぎたってこと。
- B なりすぎた？
- L そう。その拳げ句に、大事故ときた。
- M 制御が確実になるまで、KHKの製品は処分。
- N すべてこの型に作り直します。
- B 明日香を壊しちゃうってこと？
- N そう。同じラインで製造された製品すべてね。フジワラ、いいえ、S501。
- F はい。
- L・M・N あなたもね。
- F ……イエス・マスター。
- M すぐに分解作業始め(るから)。

B フジワラ。

B、Fに向けて。

B ……よくよく運のない男だな。

F (うれしそうにBを指さし) シヤアの最初のセリフだ。

M 始めて。

Fの周りをロボットたちが囲む。F、ロボットの中に取り込まれる。青転。F、上手に去る。溶明。

L さて、次もさっさと…。

B 待って。事故ってどういうこと？

N 高機能になりすぎたって言ったでしょ。

B なりすぎたって…。

M 皮肉ねー。機械に開発主任やらせて機械を作らせたなら、人間に近づきすぎたなんて。

L だから、姉貴も賛成したろ？

B 人間に近いつて駄目なことなの？

N ……その機械、ほんとに友達だと思ってる？

B もちろん。人間と変わらない。

N お嬢ちゃん、それがどれだけ危険なことか分かる？

B 危険？

A ……危険ですね。

B 明日香！

A 響子、私は取り替えられるって言ったら怒ったよね。

B うん。

A でも私はやっぱり機械。

L お、意外と物わかりがいいじゃない。

M その機械が人間と変わらないってどういうこと？ 人間の値打ちって何？

N だから危険なのよ。

B でも！

L あー、めんどくせー。相当入れ込んでるわ、こりゃ。

M 制限を設けて正解だったね。

B 制限？ どういうこと？ さっき、フジワラも言ってた。

L・M・N 人間と全く同じになる寸前に、すべての記憶がリセットされる。

B ええっ？ あ、明日香、さっき言ってた…

A 私の帰る所。

B 孤独。

A そつ、孤独。あそこはたぶんそついう名前の場所。

N ところが、その…明日香？ それは、前のリセット段階で暴走したのよ。

B 暴走？

M 自分で言えば？

L どーせ、フジワラから記憶が送られたろ？

A 『すべて消えてしまつたら、なぜ私に記憶を与えた!?!』

M E。

B 何？

A 私は戦闘モードをフル回転させて、研究所員をすべて殺害した。

B ええっ！

M 生き残ったのは、試験的に開発主任をやらせていた人型機械のフジワラだけ。

L ほら、機械に主任やらせて正解だったろ？

M ふん。

N エネルギーをほとんど使い尽くして、その明日香は消えたのよ。

B まさか。

N たぶん、またそれが起きる。

M 分かった？

B ……。

L・M・N では、処分を開始する。

B 待って！

M 何？

B …私、ずっと自信がなかった。

N 何の話。

B 年を取れば取るほど、自分がだめになっていく気がして。

M …子供ね。

L ま、私も覚えがあるけど。

M ハンツ！

B でも、明日香がいれば大丈夫な気がする。明日が来るのを怖がらなくてもいい気がするの。

A 響子。

三人 ……。

B お願ひ。

N 世の中にはね。どうしようもないことがあるの。

B ……。

A お願いです。必ず処分に応じますから、最後に響子と話をさせてください。

L あー。ここまで人間くさくなって、まだリセットされないのか。

N このレベルまで、子供がカスタマイズしたなんて。どうする？

M …このエリアを嚴重に困んどいて。

ロボットたち、周りに広がって立つ。三人、上手に去る。

A 響子。

B 明日香。

B、下を向いてしまう。

B ごめんね。

A …。

B 私にも言ってあげられる言葉がインプットされてないみたい。

間。

A …響子、最後に…プレゼントがほしい。

B プレゼント？

A うん。

B いいよ。何がいい？

A …明日も覚えていて。

B ……。うん。うん。

A ありがとう。私も忘れない。

B うん。

A (正面に向いて) 処分を開始してください。

機械音が辺りを包む。上手下手にサス。上手が大きくAがロボットに囲まれており、下手が小さくBがいる。

A さよなら。

B 明日香、明日香。忘れないからね。

だんだんAの姿がロボットに埋もれていく。最後に右手だけが見える。その右手が指の合図をする。そしてサスがゆっくりと消える。

B 私の明日の中には、ずっと明日香がいるから。

Bのサスも消える。暗転。

暗闇からジーッジーッと機械音がする。ゆっくりと中央にサス。サスの中に何か落ちている。その光の輪の中に、さきほどの集団を同じ型のロボットが歩いて入ってくる。足下に落ちている折り鶴を認めて、立ち止まる。見つめていると、声が聞こえる。

B 明日香。

ロボット、見るべき方向を見つけたというように、ゆっくりと正面上を見上げる。ロボットが微笑んだように見えながら、幕。

引用・参考

歌 大塚愛 「さくらんぼ」・「ラーメン3分クッキング」・「プラネタリウム」・「愛」

「アルプスの少女ハイジ」主題歌 「機動戦士ガンダム」主題歌

テレビ「ミュージック・ステーション」オープニング・サラサーテ「チゴイネルワイゼン」

音楽

アニメ・漫画 安彦良和「機動戦士ガンダム」(日本サンライズ)

鳥山明「ドラゴンボール」・手塚治虫「鉄腕アトム」・井上雄彦「SLAM DUNK」

椎名軽穂「君に届け」・ゆでたまご「キン肉まん」

藤子不二雄「ドラえもん」・原哲夫「北斗の拳」

三遊亭金馬「三人旅」

落語

ダニエル・キイス「アルジャーノンに花束を」・大江健三郎「飼育」

小説

ビクトル・エリセ「ミツバチのささやき」・ジエームズ・キャメロン「ターミネーター」

映画

はんにゃ・天津・オードリー・ゆーとぴあ

お笑い